



社協だより



～みんなで食べよう～



井原子ども食堂

地域がつくる子どもの居場所



食でつながる地域づくり

井原子ども食堂

一人でご飯を食べる子どもをなくすために地域に子どもたちの居場所をつくり、みんなと一緒に楽しくわいわい食べようと井原子ども食堂が開かれています。

子どもを中心とした地域交流

井原子ども食堂は子どもを中心とした地域の中で人々とつながり、一緒にご飯を食べる子どもたちの居場所です。

毎月第4金曜日に17時半から19時まで井原市総合福祉センターで開かれ、メニューは彩り野菜の特製地区輪カレーと季節の果物を使ったオリジナルデザートなど、子ども100円、大人200円で楽しく食べることができます。



↑友達と食べるとおいしい!!



↑受付係の男性ボランティア

「カレーの具材はどうしようか。何をデザートにしようか。集合時間はどうしようか。」など、毎回仲間と楽しく話し合いをしながら決めていくのは、井原子どもボランティアの13名のみなさん。
子どもたちの笑顔や「おばちゃん、このカレーが一番おいしいよ!!」という声をプレゼントしてくれ、「こちらこそ来

てくれてありがとう。」とあったかい気持ちになります。
ボランティアのみなさんにとって、子どもたちの笑顔が井原子ども食堂を支える大きなチカラとなり、自分たちの役割のある居場所になっています。



↑名物「地区輪カレー」



←調理は女性ボランティア

居場所がつなぐ地域の未来

冬休み特別企画「もちつき体験」では、市内小学生・幼稚園児などの43名の子どもたちや保護者、井原保育園の年長15名、総勢80名が参加しました。さらに、社協ボランティアアセンタ―登録団体のコミマサポーター4名も参加し、ボランティア同士の交流にもなりました。



→もちつき体験中



↑MARIちゃんとうたであそぼう

学校以外の場所で、地域の方との新しいつながりが子ども食堂を通じて生まれています。

地域の子どもたちが、子ども食堂や地域のイベントなどに参加しやすい雰囲気为学校・地域・家庭が連携してつくっていくことが大切になってきます。

子ども食堂を支える大きなチカラは、食材を地元の農家からお米や野菜、果物などを頂いていることです。

また、新たな活動として、(株)ハローズからフードバンク活動として、食材を提供して頂くことになりました。フードバンクとはまだ安全に食べられる食品を廃棄するのではなくて、必要としている人たちがサポートしたなつながりの一つです。



→地域の方やスーパーからの寄付の品々



井原子ども食堂は新しいつながりをつくる場所として、普段はつながることがなかった人同士が、安心して同じ場所で一緒に時間を過ごすことができます。

大人たちが地域全体で子どもを育てていくという意識をもつことは、家庭にとって子育てがしやすくなり、子どもを中心とした地域全体が活性化することに必ずつながっていく活動と確信しています。

みんなの手 その5

～井原市社会福祉協議会ボランティアセンター登録団体紹介～

『とんとん隊』



設立：平成24年

会員数：20人

活動内容：トントン!と～とバッグの絵付け

活動日：毎月第1水曜日

インタビュー

①きっかけは？

体験に誘われて。とにかく楽しかったんです！
声をかけられ「はい。」これがきっかけです。

②大切にしていることは？

参加している仲間と和やかな時をもてること。

③やりがい・楽しみは？

各々が白い袋に絵付けをして仕上げます。
そのと～とバッグが皆様の手に渡っていく時は達成感で一杯です。

おしゃべりしながらの作業は楽しくて最高です♪



夏休み子ども企画



一緒に盛り上げよう！ 出演者大募集!!

活動発表や上演など、皆さんの積極的なご参加をお待ちしています。

応募締切：平成31年2月1日(金)

※出演応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。

ボランティア活動をされている方、興味・関心のある皆さん、ぜひお越しください。

日時：平成31年3月22日(金)
10時30分～15時00分
場所：井原市芳井生涯学習センター
内容：ボランティア活動報告
福祉作業所の販売など



ありがとうボランティア交流会開催

受賞おめでとうございませす

11月20日（火）、福祉関係者230名が参加し、平成30年度井原市社会福祉大会が行われ、多年にわたり地域福祉活動をされた方々の表彰が行われました。

《福祉功労表彰》



藤原 篤 生【東江原町】

（NPO法人まちづくり岡山

ネットワーク理事として永年活動）

藤本 哲 治【野上町】

（地域福祉の推進に永年活動）

（敬称略）

笑顔ソムリエトップトレーナー
一般社団法人笑顔咲く咲く協会
代表理事 吉羽 咲真好 氏



記念講演では、『生涯自分の2本足で歩いて人生をまっとうして欲しい。そのために、毎日入るトイレで体操をすれば忘れずにできると、笑顔咲く咲く体操を会場の皆さんと一緒にしました。』

♪両手をあげてグーパー グーパー
爪の先までパーのパー パーのパー
足を上げたままのまま♪

第3弾 ひきこもりサポーター養成講座

『社云への第一歩を考えよう』

辛い現実から逃げたいからひきこもり、本人は自問自答しマイナス思考になります。そんな時に周囲から何かせかされるような言葉を言われると怒りになり、結果、周りは当たり障りのない会話をし本人の要求がエスカレートします。どうかして家庭内で解決しないといけないという思いを生み、相談できず孤立し、ひきこもりが長期化する傾向にあります。

ひきこもった原因よりも、これからどうしていくかを考え、本人に対して継続して粘り強く関わる第三者の介入が解決への第一歩になります。

【講師】NPO法人 One

代表 田村操希氏

そうした現状の中で家族は、本人の出来ていないことではなく出来ていることに着目し、無理のない程度に本人の役割をつくり、上手にほめることが大切です。

『過去と他人は変えられない。周りの力で変えようとせず、本人の力で変わるよう待つことがとても重要という話を聴きました。』

ひきこもり専門相談（要予約）
毎月第4木曜日 10時～12時

～ハートフルカプセル～

万が一の時、情報を伝えられますか？

年に一度は確認しましょう!



救急時・災害時など、急な支援を必要とする事態に備え、緊急連絡先やかかりつけ医、服薬中のお薬情報を記した情報カードを入れ、誰でも見つかるよう冷蔵庫に保管するカプセルです。

①お薬情報は最新のもの!!

中の情報が古いままだと誤った情報を伝えることにもなります。お薬内容が変わったら、新しい情報の紙と入れ替えましょう。



②緊急連絡先は複数記入を!!

連絡がつかなかったり、遠方ですぐに來れない場合に備えます。

「もしもの時のために準備しておきたいなあ…」という方は、地区社会福祉協議会長、または民生委員までご連絡ください。



カプセル内に入っているハート型のマグネットはカプセルを保管する冷蔵庫のドアに貼る!!

※カプセルの保管場所は冷蔵庫のドアポケットです。

